

麴町教会「ミサがわかるセミナー」2024～2025 シリーズ  
《年間テーマ》  
**神の家のよろこび**

**第4回 行きましょう、主の福音を告げ知らせるために**

2024年11月3日（日）石井祥裕

**1 現行ミサの閉祭（〔ラ〕 Ritus conclusionis）**

交わりの儀（Ritus communionis）が拝領祈願（Oratio post Communionem）で締めくくられる。

**140 お知らせ**

必要があれば、会衆への短いお知らせ（annuntiationes）が行われる。

**141 派遣の祝福**

続いて派遣（dimissio）が行われる。司祭は会衆に向かって手を広げて言う。

**主は皆さんとともに。**

会衆は答える。

**またあなたとともに。**

司祭は会衆を祝福して唱える。

**全能の神、父と子と聖霊に祝福が +皆さんの上にありますように。**

会衆は答える。

**アーメン。**

---

**142 一定の日や状況によっては、上記の祝福のことばの前に、典礼注記に従って**

他のより荘厳な祝福、あるいは「会衆のための祈願」が行われる。

---

**143 司教が司式するミサのこと（略）**

**144 閉祭のことば**

助祭または司祭は手を合わせて会衆に向かって言う。

**感謝の祭儀を終わります。行きましょう、主の平和のうちに。**

または

**（感謝の祭儀を終わります。）行きましょう、主の福音を告げ知らせるために。**

または

**（感謝の祭儀を終わります。）平和のうちに行きましょう、日々の生活の中で主の栄光をあらわすために。**

会衆は答える。

**神に感謝**

**145 退堂**

開祭のときと同じように、司祭は祭壇に近づき、両手で祭壇に触れながら深く礼をして表敬する。

その後、祭壇の前で奉仕者とともに手を合わせて深く礼をしてから退堂する。

## 2 閉祭に関する歴史から

\*感謝の祭儀が実り＝「交わりの儀」（聖体によるキリストとの一致、共同体の一致）

この恵みに感謝する拝領祈願が終わるとこの集いは実質的に終わる。

\*終わり（解散）は簡素だったが、やがて感謝の祭儀全体の恵みを受けての解散は派遣であることの意識が深まり、3,4世紀から司祭の祈りで表現されるようになる。

### (1) 「会衆のための祈願」（Oratio super populum）

会衆は頭を下げて 司祭の祈願を受け、「アーメン」と唱えて結ぶ。

→現在のローマ・ミサ典礼書では**四旬節主日に編成**

加えて任意の「会衆のための祈願」が 28 ある→日本語版新式次第に所収

### (2) 派遣の祝福

ローマの司教（教皇）ミサの終わり 閉祭のことばのあと、退堂の前に  
司祭・奉仕者団のために「主がわたしたちを祝福してくださいように」と祈った、  
中世後期から 退堂の前に、祭壇のところから司祭が祝福を祈る。

13世紀初めから**現行の祝福文言が定着**

「全能の神、父と子と聖霊に祝福が **+** 皆さんの上にありますように。」

（直訳「全能の神、父と子と聖霊が、あなたがたを祝福してくださいように。」）

「**荘厳な祝福**」 司教祝福の習慣から任意のものとして形成される

典礼に季節・祝祭日などに応じた本文 ⇒日本語版新式次第に所収

（待降節、降誕節、年の初め、主の公現、主の受難、復活節、主の昇天、聖霊、  
年間一～五、聖母マリア、聖ペトロ聖パウロ 使徒、聖人、教会献堂、死者）

### (3) 閉祭のことば

#### a) 古代教会の多様な実践

アンティオケイア典礼、エジプト典礼「（あなたがたは）**平和のうちに**進み行きなさい」

ビザンティン典礼「（わたしたちは）**平和のうちに**進み出しましょう」

西シリア典礼「（わたしたちは）**キリストの平和のうちに**進み行きましょう」

ギリシア語圏の会衆の答え「主のみ名によって」

ミラノ典礼 *Procedamus cum pace* 「（わたしたちは）**平和のうちに**進み行きましょう。」

会衆の答え *In nomine Chrisiti* 「キリストの名によって」など

#### b) ローマ典礼 *Ite missa est.* 「閉会しました。（あなたがたは）行きなさい」と簡素

（＝感謝の祭儀を終わります。行きましょう）

後に初めに「主は皆さんとともに」「またあなたとともに」

続いて、祝福のことば、

続いて、閉祭のことば、

会衆の答え「神に感謝 *Deo gratias.*」で締めくくられる。→現在の式次第

⇒全体が「**感謝の祭儀**」であることが明示される

c) Ite missa est.と「ミサ missa」という祭儀名称

ラテン語としては一般の解散用語 missa → missio → dimissio

典礼祭儀の解散のことばとしては「祝福」の味わいを含む。

400年頃から、典礼祭儀が一般に「ミサ」と呼ばれるようになる

(当初は朝晩の聖務も指したが) 5世紀半ば もっぱら「感謝の祭儀」の呼称に

d) 現代における閉祭のことばの多様化

1970年以來「ローマ・ミサ典礼書」は、伝統に従い Ite missa est. Deo gratias.

(日本語版では、古代教会の例を汲み「主の平和のうちに」が加えられる)

2002年の第3版発行のあと「補遺」で追加される。

(2008年の「聖体」に関する世界代表司教会議(シノドス)での要望から)

「行きましょう、主の福音を告げ知らせるために。」

「平和のうちに行きましょう、日々の生活の中で主の栄光をあらわすために。」

→単なる解散ではなく、派遣であることがより明らか

### 3 聖書からの照らし〜黙想のために

#### (1) 救いの歴史は祝福の歴史

##### 天地創造 被造物と人類への祝福

創造「神はそれらのものを祝福して言われた。『産めよ、増えよ。海の水に満ちよ。鳥は地上に増えよ』」(1:22) 「神は彼ら(人=男と女)を祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ』」(1:28)

ノアの祝福と契約「神はノアと彼の息子たちを祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちよ』」(9:1) 「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる」(9:9)

##### 神の民(イスラエル)の召命と祝福

アブラハムの召命「わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る」(12:2-3)

モーセに導かれる民「あなた(イスラエル)があなたの神、主の御声に聞き従うならば、これらの祝福はすべてあなたに臨み、実現するであろう。」(申命記28:2)

##### 新約の神の民と祝福:

「信仰によって生きる人々は、信仰の人アブラハムと共に祝福されています」(ガラテヤ3:9)

旧約の神の民から新約の神の民へ (アブラハムへの祝福の系譜)

キリストによる救いそのものとしての祝福 (エフェソ1:3-12)

「3わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。4天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。5イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定め

なったのです。6神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。7わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。8神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、9秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。10こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。11キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。12それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです。13あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。14この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。」

⇒派遣の祝福「全能の神、父と子と聖霊に祝福が ☩皆さんの上にありますように。」

の理解のもとにある救い＝祝福の歴史の全体展望

⇒ミサにおける神からの祝福（救いの恵み）と人からの神賛美（賛美と感謝）の対応

## (2) 閉祭（派遣）のことば に関連する聖書箇所

\* 「行きましょう、主の平和のうちに」

「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい（Vade in pace.）」

（マルコ5：34 ほかにマルコ10:52; ルカ17:19参照）

\* 「行きましょう、主の福音を告げ知らせるために」

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。19だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、20あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:19）

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」（マルコ16:15）

\* 「平和のうちに行きましょう、日々の生活の中で主の栄光をあらわすために」

「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい」

（一コリント6:20）

「あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」  
（一コリント 10:31）

## 4. 閉祭に関するその他の事項

(1) 「お知らせ」について

(2) 閉祭の歌について ⇒ 式次第の項目にはない慣習

参考：「ローマ・ミサ典礼書の総則」90c)「散会—各人がともに神を賛美し、たたえながら、自分の仕事に戻るよう、会衆は助祭あるいは司祭によって解散される」